

記入例

国民健康保険傷病手当金支給申請書(医療機関記入用)

患者氏名	大磯 二郎		
傷病名	新型コロナウイルス感染症による呼吸器疾患(肺炎)	初診日	令和 2年 3月 13日
発病年月日	令和 2年 3月 10日	濃厚接触者で、発症はしていないが、PCR検査を実施した対象者は、保健所により「濃厚接触者とされた日」を記入してください。	
労務不能と認められた期間	令和 2年 3月 10日から	発病の原因	不詳
	令和 2年 3月 27日まで	治療期間ではなく、療養のため就労できなかったと認められる期間を記入してください。	
うち、入院期間	令和 2年 3月 13日から	療養費用の種別	<input type="checkbox"/> 国保 <input checked="" type="checkbox"/> 公費(感染症) <input type="checkbox"/> 自費 <input type="checkbox"/> その他
	令和 2年 3月 27日まで	転帰	<input checked="" type="checkbox"/> 治癒 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 転医
診療日及び入院していた日を○で囲んでください	令和2年3月	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	診療 実日数 15日
	令和 年 月	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	診療 実日数 日
	令和 年 月	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	診療 実日数 日
上記期間中における「主たる症状及び経過」「治療内容、検査結果、療養指導」等の詳細			
新型コロナウイルス感染症の感染の疑いのため、3/13 初診。PCR検査の結果陽性であり、肺炎の症状がみられたため、同日から入院。10日間程度で症状の改善がみられ、3/27 に実施した検査において2回目の陰性となったため退院。		手術年月日	令和 年 月 日
		退院年月日	令和 2年 3月 27日
症状経過から見て従来の職種について労務不能と認められた医学的な所見			
肺炎の症状の改善後も感染拡大防止の観点から、検査が陰性となるまでは入院が必要であったため、入院期間は労務不能と判断した。			
上記のとおり相違ありません。			
訂正される場合は、訂正箇所を二重線で抹消し、正しい内容を記入してください(訂正箇所の近くに療養担当者のフルネームの署名か押印が必要です)。			
医療機関の所在地	〇〇市△△町3丁目45-67		
医療機関の名称	国保総合病院	電話番号	345-678-9012
医師の氏名	国保 一郎		

医療機関担当者が記入するところ